

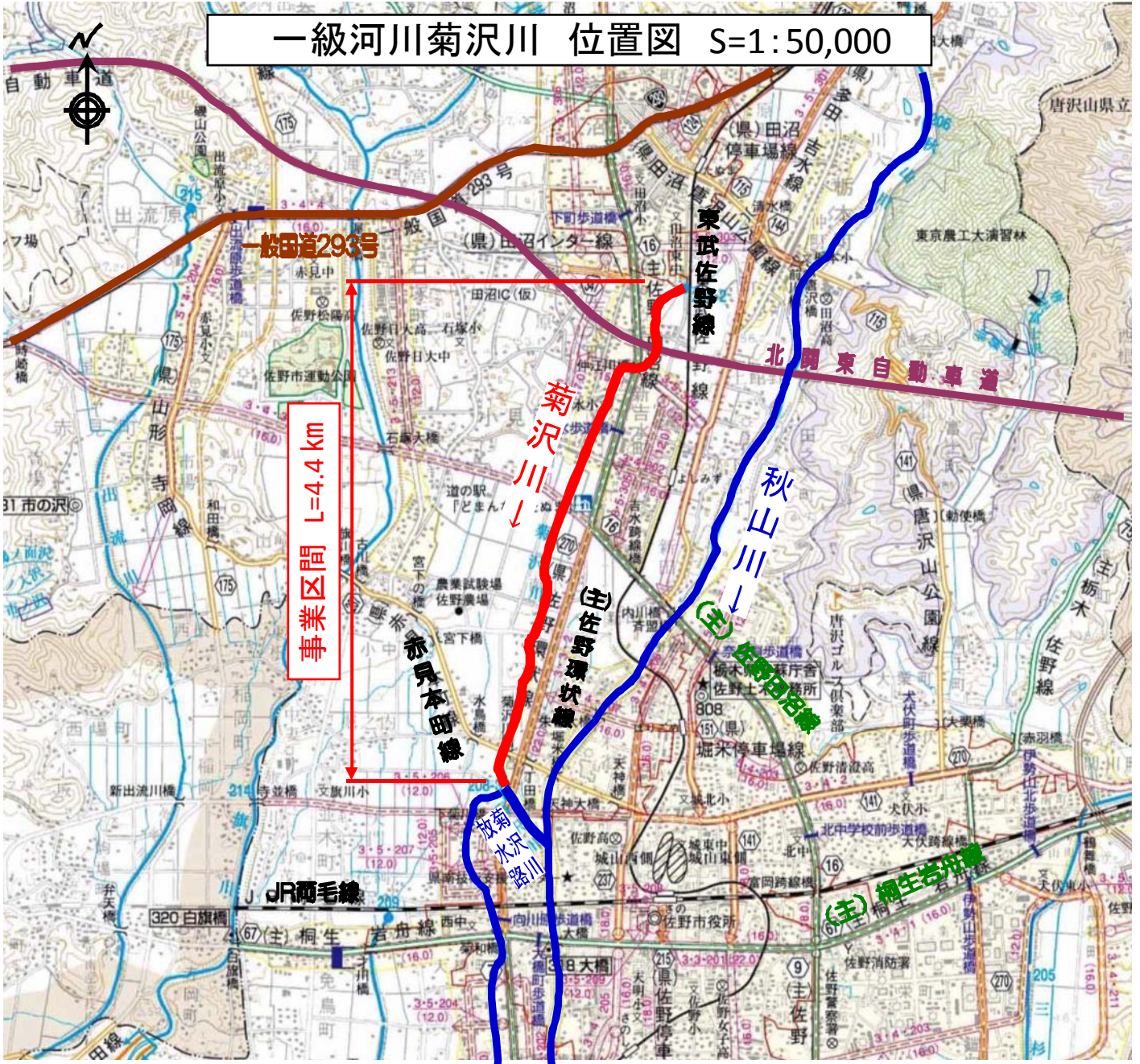
事業概要調書										
1 事業名	一級河川菊沢川 安全な川づくり事業									
2 事業箇所	佐野市 <small>ほりごめちょう</small> 堀米町									
3 事業の概要	(1) 事業目的	菊沢川は佐野市田沼町（旧田沼町）に源を発し、旧田沼町及び佐野市の市街地を流下し渡良瀬川に合流する一級河川であるが、現況流下能力が低いことから台風等の豪雨出水時には、家屋や道路等に浸水被害が発生している。このため、地域住民の人命や財産・インフラ等を守る為に、当該区間の整備に着手し、治水安全度の向上を図るものである。								
	(2) 事業内容	<p>【計画の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画流量である 65 m³/s の洪水を安全に流下できるよう河道断面を拡幅する。 現況のみお筋を生かして河道を拡幅することにより、河川環境の保全を図る。 現地には絶滅危惧Ⅰ類（Aランク）に分類されるナガレコウホネが生育しており、計画策定にあたっては地元住民、学識経験者等を含めた「川づくり検討委員会」を開催し保全方法等も議論しながら進めている。 <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> 総延長 : 約 4.4 km 計画流量 : 65 m³/s 確率規模 : 1/15 工事内容 【本工事】 築堤 約 5,800m³ 掘削 約 95,000m³ 護岸 約 12,200m² 【附帯工事】 排水樋管 16箇所 取水樋管 4箇所 道路橋 22箇所 付替道路 1,200m 								
	(3) 事業予定期間	<table border="1"> <thead> <tr> <th>期 間</th> <th>事 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成24年度～</td> <td>測量・詳細設計、用地測量</td> </tr> <tr> <td>平成25年度～</td> <td>用地取得</td> </tr> <tr> <td>平成26年度～43年度</td> <td>工事実施～事業完了</td> </tr> </tbody> </table>	期 間	事 業 内 容	平成24年度～	測量・詳細設計、用地測量	平成25年度～	用地取得	平成26年度～43年度	工事実施～事業完了
	期 間	事 業 内 容								
	平成24年度～	測量・詳細設計、用地測量								
平成25年度～	用地取得									
平成26年度～43年度	工事実施～事業完了									
(4) 事業費及び内訳	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>約 28 億円</td> </tr> <tr> <td>事業費内訳</td> <td> 工事費 : 約 10 億円 用地補償費 : 約 15 億円 測量設計費 : 約 3 億円 </td> </tr> <tr> <td>財源内訳</td> <td>国 費 : 50% 県 費 : 50%</td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	約 28 億円	事業費内訳	工事費 : 約 10 億円 用地補償費 : 約 15 億円 測量設計費 : 約 3 億円	財源内訳	国 費 : 50% 県 費 : 50%			
総事業費	約 28 億円									
事業費内訳	工事費 : 約 10 億円 用地補償費 : 約 15 億円 測量設計費 : 約 3 億円									
財源内訳	国 費 : 50% 県 費 : 50%									
(5) 事業発案の経緯・背景	菊沢川は現況河川が狭小で、流下能力が低いことから、出水の際には沿川の宅地や道路に浸水被害が発生している。このたび、当該事業区間の直下流で菊沢川の洪水を受ける菊沢川放水路が完成（H23 予定）することから、引続き当該区間の整備に着手し、沿川における浸水被害の解消を図るものである。									
4 県計画への位置付け	「県民の命を守る河川砂防構想」における基本方針1「災害に強い安全な県土づくり」、基本方針2「豊かで美しい水環境の形成」に基づき、水辺の生物多様性の確保や美しい河川環境の保全に配慮しつつ、着実な施設整備を進める。									
5 他計画・他事業との関連	菊沢川放水路 安全な川づくり事業（県事業）									
所管部課名	県土整備部 河川課									

※ 別添図面・・・事業位置図（縮尺S=1/50,000）

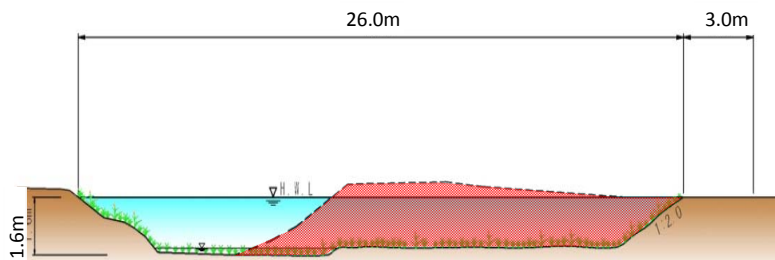
事業評価調書

事業名	一級河川菊沢川 安全な川づくり事業
1 事業の必要性	一級河川菊沢川は、現況河川が狭小で、流下能力が低いことから台風等の豪雨出水時には、家屋や道路等に浸水被害が発生している。このため、地域住民の人命や財産・インフラ等を守る為に、当該区間の整備に着手し、治水安全度の向上を図ることが必要である。
2 事業の適時性 (今事業に着手する理由等)	菊沢川は現況流下能力が低いために、早期の河川改修が望まれている。 また、近年は局所的豪雨等による水害リスクが高まっているほか、北関東自動車道佐野田沼インターチェンジ完成や同道全線開通 (H23.3) 等により、沿川の開発が進むことによる氾濫時の被害の増加が懸念される。 このたび、当該事業区間下流の受けとなる菊沢川放水路が平成 23 年度に完成する見込みであることから、引続き当該区間の整備に着手し、治水安全度の向上を図るものである。
3 事業の適地性	計画区間は、旧田沼町の市街地を含むよう、下流端を菊沢川放水路合流点として一級河川指定区間上流端までの4.4kmとした。
4 事業手法の適切性 (県が事業主体となる理由等)	一級河川菊沢川の河川管理者である県が事業を実施する。
5 事業により予想される効果及び影響	<p>○経済効果</p> <p>総便益 (B) 181.9億円 施設完成後50年間の効果を金銭に換算したもので、治水事業によって得られる家屋、農作物、公共土木施設などの被害防止便益の合計に、施設の残存価値を加算したものである。</p> <p>総費用 (C) 20.1億円 建設費と施設完成後50年間の維持管理費をそれぞれ現在価値化して加算したものである。</p> <p>費用便益比 (B/C) 9.1</p> <p>○被害軽減効果</p> <p>確率規模1/15年の降雨に対する想定浸水区域内の状況 浸水面積72.5ha、浸水家屋233戸</p> <p>○環境への配慮</p> <p>当該事業区間内には、絶滅危惧Ⅰ類 (A ランク) に分類されるナガレコウホネが生育しているため、事業実施にあたっては、現況のみお筋を極力活かして川幅を広げる河道計画とすることにより、現在の良い状態の河川環境を保全しながらの河川改修を実現し、また必要に応じて移植を行う事により、ナガレコウホネに代表される菊沢川の自然環境の保全を図る。</p>
6 事業コスト縮減等の可能性	・現況河川を極力活かした河道計画とすることにより、新規の護岸等河川構造物の設置を抑制し、事業コストの縮減を図る。

一級河川菊沢川 位置図 S=1:50,000



標準横断面図



計画流量	50m ³ /s
現況流下能力	概ね20m ³ /s

現況のみお筋を生かし河道を拡幅することにより従来の環境を極力保全するよう努める。